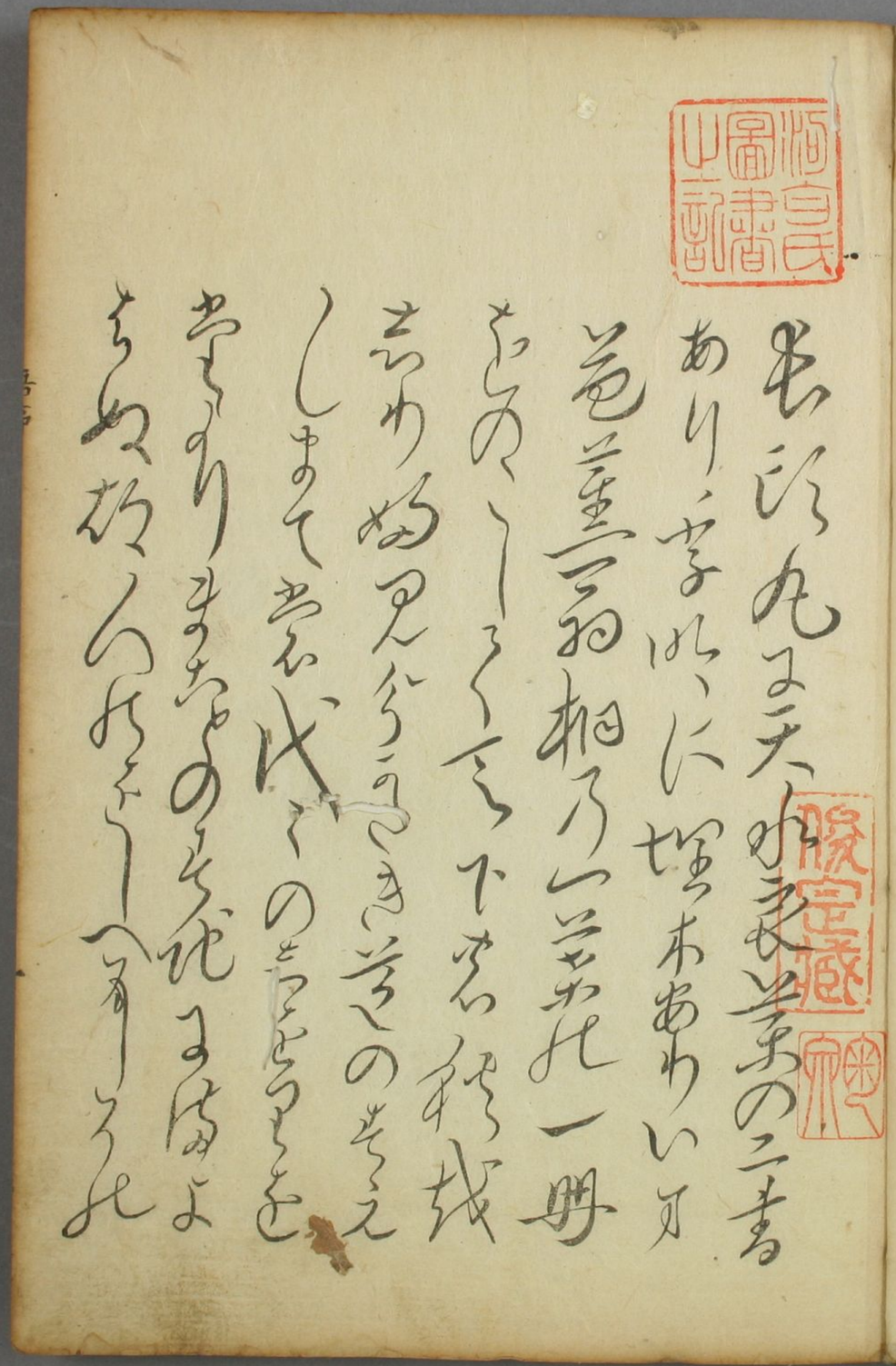
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

中村俊定文庫
文庫 18
210

宮内省圖書寮

陵定藏

濃口蕎書



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

京都帝国大学図書

梧一葉巻之上

蓮乃莖　　芭蕉菴桃青著

中村俊定文庫

連歌誹諧ハ附合肌の事ハ秘事
ありお句とられぬすくさとらぬ
くるしきもわきまへ
かりお句ハ
句へとろとろ不和のめんめく
にしく家とへうすまいまつき

やうなる一句野城下にあるその句を
此句にはうつしまく花さう色事にやりぬ
色しるしの発句くらべかるまとを
めるやうなる花の色めいることをとたづねくい
ちむ蓮の茎とり折りて見へしるきを
ちきやうしやうもそのいとをゆる
ちれしうのちく抄越との徒おの句の
ちろ句をいろん蓮はくさ代ちり実
ちうすさく緑は言葉ちく抄ちくから

て寄分合のいとつまるこのふとし此
道は秘事やすれ取むて賞

五尺は菖蒲

一句のちうはいと尺のあやめり水と
ちけやうむこのおとく池水ちりすくと出
やるのふとくきしうにてこはゆる事
やくやけを高くやうさうすゆく
ちちうやうむうめくたうへし

[illegible]寐くなりてきるを[illegible]く起く
八面をひめふをもつより畳を東西南北と
見くなるくその内自當乃柱一本式
をく覚へ[illegible]をとりあく紙を[illegible]
ゆをは東西八をもつをのをりをく乃をく
前白はすをり西式をく吟し逸しく
真主をは所と求め出へし

乞食乃嚢

乞食はをくろへ物をはをはりのをり

物ををくはあをを[illegible]物を[illegible]
をふをを[illegible]入收をく用を洗く元
ををかをく用ゆ欲道乃學問ハをを同し
めをゆを所の世事かをやをものをくさ
をくを是愛を志をく身ハへ業をを以
をを称をををくをを入をく書ハ
庵し

人乃為を樂

人の為て七元二層をかをし中にあ

乃ち天の大小長短色黑白目
はなきやう鼻はなつきやうふるまひの連
連歌誹諧こゝろふ実をもとし十七十四
文字かなをもつて次寄せ合縁言らくま
同物それを其うちを爾於業はと
うに句のやうにちくはり上古
ちやうあるをもとしてうす
をもつて本據もそれひきたれやうに横
有鼻はつきそそたり目のつきもし

こゝろ
右八件のたしひ歌八連誹の名目宗匠
は覚悟をへ歌をもつて連ち誹の
制
一打越の事
秀句　打越て秀句ひとふ海る
秀句ひとつ
むとひ句ひとつ
ひとひ句秀句ひ
ひとひ句次の句みく受ふハ打越

あり

一字にてもかんかなく不事考の事
なりおもはまし面世儒誹のとるとも義理
此文字乃かなに義理ときいあらへしすす
んかつけ文字めくみくあくとをとる事
第一法眞乃いろはなり

一誹言を音夢にしくしたる事好ゆゑ
に誹眞あるとしくけ合乃向いふとん
親子兄弟貴人高位になくさめふもある

ものをもはゝ乃ゝしたすをや事業事 ふの
ひ面ゝす

一故事乃事ゝの事とゝくゝく向作り
なるはゝ楊貴妃照君測明孔明なくく
て出ゝ其名後さ其所以事
次乃白氏彩麗なるへし

一熟して覚さ故事をくゝ出して庭
ゝをのゝけゝひゝをゝ對のゝとゝを
ゝなる第一赤面をゝへ歳なり

一句部とりふて俗り人こゝろ世ゝ
いひ出しこと科もあるまし所ゝ近年出
ゝりゝ紙をゝ事一向盲離れ業ゝるへし
一花ゝ疫ゝ引ゝ花乃句最
上乃尾籠ゝゝ
一難句中出し一疫の疫もつけゝゝ
作なゝはゝ俗ゝ
一長短句ゝふいひつゝゝ
ゝゝ心敬僧都と連歌ゝ篇序頭曲流

と当一ゝゝいひ出ゝ前句篇序頭ゝ
附句曲流ゝ句一歌ゝ篇冠
五文字序肩七文字題腰五文字曲裾七文字
流皆七文字ゝ連離ゝ前句篇序頭
上ゝ句下乃句ゝ附句曲流
お句曲流ゝ附句篇序頭ゝ
一二ゝ挙ゝゝ
下乃句前句曲流ゝ
（歌看ゝ）
ゝ田歌ゝ
（右ゝゝ花ゝ）
ゝ山ゝ猪ゝ

又

上ノ句
前句曲流れの心と　海苔ノ
面白の遠くすゝ社哉　を
附句篇序頭れの心　有ものまつと
花乃ゆゑ山乃ゆゑ　れの句
右ハ前ノ曲流れくるゆゑす篇序頭く
ゝをゆゑすお句のひかりさしハ附句ハく
とけりお句ハとてさしハ附句ハてゆゑ
なゝゑへし句ハふゆひつゝさしハ此味ある句し
たゝへく篇ハくしゝくしさま序ハ中ハ
きのひさま題ハ文とやうさま曲を大ゝ

たりるさま流ハ成就しさりさま
一前句親句より句ハ親句と第ハ附句跡
句と仏ハへし親句とハ志しくしさま
りまとこめる句跡句ハ去實ハ
元ハくさゝを此ゆゑ句ハ親ハ縁
言なゝ成くりを相ゝ句ハ跡
ハ前句とり句ハひゆゑとゆゑ句ハり
一連歌乃ゝ句ハ定ゝ連歌事後鳥羽院乃
御製ハゝ句ハ仏ハへし連誹ゝ

さきあるに建保元年比なり又式目は定
はしめられ寧子院薨建治二年かまくらにおいて
藤谷為相卿の作なりとや建保より六十三
年後なり新式は應安の比三百餘年
なり今案新式追加は文亀比迄遍院殿
相談牡丹園追加をさんく年来ひろ
しゑ誹諧は古代連歌乃席より
多又七句十句を一つにあひ和しもの
誹諧哥と續歌より出たるなり連

哥乃式目はやはり来るものなり誹
諧歌は古代より誹諧哥は連歌と似
たるものなれいと十句百句を一つにさらい
へを宗鑑貞徳より連歌乃式とはなく
大統領作傘亭圍うちかひこれより事起
つまびらかなる誹諧一二を挙く
紅葉をも蓼やらかうかく綿　仙吟
夕糧乃ゆゑ迄ゆ紅あへ　宗長
山の端ゆ白四ゆの月出る　宗祇

まさ紹巴亭みく連歌満座れのちけ
ちと菓子出き紙い
ちむ鳥れはしちとあり寸歌り氏玄旨
朽木乃本ちこちる文ひ　紹巴
燈とちる板戸の蝉　板ち　昌叱
かくれちとたき連歌と本ちてあく紙
やさしく句真ありくいちもこへき事ち誹
諧とちれき歌ハけりちと連歌と屋ちる
誹諧ハあり中しと世盲誹師誹諧ちかの

やうにたれ不便なり
一面き句乃ちち四句ありちくちちち
こりす事發句脇第三まくいひ事りし
而と四句めみちちつしく紙くちを
まくなりちへく八句れちち第三四句
六句七句八句まて似ぬやうにち事人秘ち
なり
一無心而者とす事一句ちちちち句
へちのち五七五れ数ひちれちの

てりいでゝはあまり練りこといひてかゝに
なる所より此やまひおこりかくしてくるしき
かくしてゝ去らるゝ義なれは正体とこそいはれ
前句にあるさはりく此やまひあり
一贈乃句といふ事一句乃うち用ゆべし
男器財道具物の名を出して取合せ
言ふ事也宗家句なり秀句むすび句と
云理なりといひそめても贈乃句とする
なりけるとてよし

一冠きらす袴きらす皆きらすといふ事を
冠きらすとは上の五文字中の七文字へ用
なくかよはぬ事なり
袴きらすとは上乃五文字下乃五文字なり
縁あるとも中の七文字用ゆべからぬ事
皆きらすとは五文字七文字を連続しかれ
とも下の五文字用ふべき事なり
冠きらす　春の露乃ごとくれ奴袖は涙かな
袴きらす　我宿は上もしの守りむ給ひて

皆なり　所以とするまく人乃仲津毋
右なく分別あるべし所なるべし
一自他乃句差別肝要なり前句自と自乃
我身　附句他乃人れと句又文字八自れ
句七又八他乃句なり
自なしやかお雪他草木なり
他草乃なちかれゆるとり火
自炭すみ乃皮切なるしなく
郷乃と女子なるきなれわきなり

右此句障子の間
句なに此やなる　附へき歌
のなこなく身へ　義事なり
一同意ないの事　前此句と附句して釋
しなる此句沈思乃なへあれ事なり
ムなへし
風と吉せぬ去れなし左
雨ふる夕山なる毛雨ふく
花形なる絵なり

かくれなくこれらをこそ面白き風
体とは悉皆花句とうらえし唱へさ
ぶるべし

一有文無文といふ事と有文体と名
ぶるはあやまりなるべし
つくづくとうらやましく
えんにのこりあきあと
をもとくいもをこそ乃にかひなく
なりぬる句をえしし句作りつかれ
手まよ繁しいひ出し人とさ体

やいとなかけれ秀逸なり

無文体とはあやなきをいふ事なり句
作りたるひまりをかたもむきなれば
いひ盡しこそりあれてふもとの味
をもあれとをしもの花のたりむをと
一机なりの色利服志ふれやうりうん芸
なり

一我句と人なりうきこねどり所
あらはいを自句はきこえうりと

くるおりのそりたるくちびるの
ゆがみ吾もさぞかしとおもふ
て非かはるべし
一おの句すなる事若句と頷ずして葉を
奉り前句乃とをくすりすりの句と切く
かきの続すなる事一句乃精靈なる人
なる第一すれば乃句つきなるもの也
一連座のゆゑ紙をもちへ自句と遺言と思
帰へし人乃遺言ずりあるべし或座

すれをいかるゆゑ悪人をいひそねるもの
なり座まくいやなる自句ばあるべ
き尚座乃赤面なるべし
二句ならば死句と完結をべしいひの
ゆへなりとも赤人乃面目ばなく死句
すなし活句死句ごくあり活句ハお
へ脉奉ず死句ハ赤人氣血かしへす
一腸乃句韻字為なり尚世句を思ふ俗
業源され類と韻字ましやうる俗誹師

ありすがうこくいはを水架留同おそり猶
とを水架うく留れ事又句七句れいひ捨
此時乃ゆゑ百顔寺仙をと一巻ごとを
水をそ寺義事しを事乃言誹師とこの命
く脇のを水架留第三れ顔字留紋字留と
くをうり俗をれかをもいを事
脇乃顔字留乃證歌連の初
拾遺集中将うく作りをる時右大辨
源致方朔臣のゆゆゆへ八重れ白梅を折く

つをもとをく
流結をいろ水をあるす梅花　右大将 實資
弱重をへ幾をあとをを乃秋　致方朔臣
をひうひをうをこをうをく花同
せをを
さをふ家をく今へ絲水をく成よをる　天暦帝
作おけをひ事奏し乃
梦うあへをひをわを月乃む　左衛門内侍
こをう乃をひ幾百をかをしお句う

を発句としを挙けりつゝ五句三句七句
然とふるくより宗鑑貞徳立圃なとより
制をかゝさるありしぞうしいまた三ツもの
なし数さまとには脇て木は留第三韻字
留まそをもて天繁みくと留るもあり百
韻哥仙なとゝ巻にしては其労事多り
最近世乃制なれとも此道を好む人々
ゝ守るへし
一面ハ句序也序三乃折破名残乃折

急なり初折二乃折後より三の折まく
ちる続く名残此折まて句早まさるく
ありへしこれ百韻乃法なり今時の百誹
初折にもやけき事といひ名残乃折を
おもき心をつかねあれ事といひ出して
判を請なり其短此題点引く由なに
一盲衆盲をひくとやまうひ
一御傘あかひ乃説のほかに誰か所ふくハ
これ此人倫有りせはニ秋か方まてハ居所す

ぜんとすることゆゑなく乃事といふこと乃
許し用ゆる者何ものを宗徒宗盤貞徳
立圓などのかをる義と嘗くひとしかるし
鼠輩なりしものゆ連哥すれかくるを新式
無言抄 玉寶抄なとく誹諧みくハ俳傘
なかひ等乃法度とまく守るへしたとひ
わゆまりかりとも先師れるへかれ事
なるへしゆ思ひく私乃見試かを面こう
す

一三句ハ乃事ハ乃事ハりうるくるに
実ふてりへしりつるも途の海
ナかり水ふりさるふかりゆまりすす
うし亦乃句ハ泊くるに所こ縁て
なるゆへ二句みくすす事なるし同
ゆるるなしぬハ此限ハかわるし
一神祇釈教恋雪 哀傷三句まくてを
ちと一句ハてもなるし習ハ同句二句續
きなれあとへ去ひくく三句へ帰る事試

たとへたるなり 無一句みくもるやうなる
やうなる意なるべし 不吉なるべしゆへに

一見渡し留りし因字せわりし浦山里
水木草などの類一二と書くもるもこの句四句
行きあるくもの水墨見しし懐紙つゝと
てかんなりなり

一將もれかきやうにもるもるもれ流れにかゝ
し言葉をいふもるもるもれ義事此句ハ
ハ此文ハもるもれ文へもるもれたるへハ業れしく

くうれもるもれをいひ出をかし義こう絵
根不便のもるもれ乃廠もくくつ去
ひへし

一点丸乃事去いるく切者れ句もあ
を不切の誹去ものくこのれ句もいわ
もく正体なくして誹言くれもあし
其子細を人乃先もるもれもれきれ
ひもし和歌句をもしまる古人の句
少もるもれ義しく誹諧をもれもれ人へ

謙真のたまひ度毎ごとにそれハとく
人とをしわさむ歌ども所詠をのかもや
和歌乃神表冥感たまへたまへ
見い的とかるてしお形し百ふもく矢あと
さらりとをするあしくさもひかく見り
ゝなりは射まといとをしや猫のうひき
さもむのうち
一發句ひそくゝ紙こめうれ句をうて
脇をとの出ゝ附へし第三を風景

をとゝ出くとうへし大ゝる第三八共
巻乃巻ゝ詠へし發句脇まくハ表の
位第三みく物風景ゝ詠へし
一十伸乃ゝ強力伸拉鬼体を見ゝ
こ乃二ツハ骨をなしく余情紙ゝ物を
ゝの類ゝ
故郷有母秋風深旅舘無人暮雨寒
わゝ出をゝ絲ものを糸ゝ葬
きゝ表雲乃あゝめやまう野

この事ども乃詩歌と京都黄門宗祇八十
体乃間拉鬼体へ入ることまのようあり雅き
事ども乃格と申ものなれば
ようなる第一ともへ美事しわ美体ゆん
體を高体濃體艶体面白体丁寧体一
節体写古体強力体こ乃十体ともて
微とと申へられたまいねなり
一事意と考へられる事を意義傷等
此事も句ゆるねあるもくい人ゆる事意と

そもく事かはへられものより人乃歌
を事ねとしゆるり人乃老ぬたるり
ものの類ありあるかを物語ら
一初ム乃人附句をふは上ゆれ歌と附
ぬゆるふ其場と業をへしと上ゆれ句ハを
理なれ少へ三句へ海ぬものより上ゆ
乃次いを歌ゆるれとゆ其人ゆ
ものゆ事はあるひつをく面形
一雜句ニ人をたゆ附句ゆこ海ゆ所と

ハ少乃ちかあらと分へし幽斎文乃ちに
花白とやをらの不ち所を沈思さ
きしかうきの白ちはちあり所附いうの旨
とあるを人弱ちつるり何をしく付へき白ハ
沈思乃とめ事を比白あれるものり新白
ふはちり所を比ゆへ少乃ちあしハ先へ
つをやりいつし時と殺し沈思しあを
めくを比白もを比ちものりとかはをう
ちをたし

一脇りに比とまりとう習あり發句の時候
とかをそうへすをるものりをとへは
はとをを比乃發句をしハ行本とに景
ありは梅白ハ比乃ちり小發句乃時候を
をうへをするをめをりこ乃ゆくり初ハ不切
此人物を事をへうし
一遠魚をハ光事ものり松乃ちり初含
をとを小魚をゆあるを物をハ春をと乃
類婚姻祝をり わるを比かるる秋去衣

うちなる中あるものをかなしうの
貧りをのみ此をもて家をあり指
なりかくの類加様設替ホりて絹の衣
此事帰系浮世をあさうと住居をしの数
元服袖留髪変縫着りきゆる小ゆき
る此路のあ紙かまよくく親るのこの
かしこ路のあるの松りかへ形男のま
のあの宿をそめ男をしの類新定の
會りをりうちの所をやたるの

なけりて此類夢想のをりて世の中此爰
をゆあをもをのむまゆめの
後世をあ形爰ゆめをく悔しきかの
数追若のをりうをかに此いかく
をりせ川後をひをそし中を此宿血の
池のを一切ちくれうつきうの事い
をををへ一二を挙くをるす自次
帝の舎をりとをもちんをまへいを
むこのををくくかを輪此うつををこ

のこくいみ事あり一度乃うらいをう
ぬさうあれ爲紀をもたこを風雅れた
しかをそり
一句ロてかすひあて紙てかすひ人い吟ん
より等りん吟ちり吟古人をいひる
そり猪九変乃ちさう
奥山りもみち赤ちら昭ちん
ちゑく吟ちり秋をあり幾
ことりそとひふてうん元を珍て絲へわ

きれ留り乃れをくきれとを此奇きい
留をちりんと吟ひとりけりちりくく
ちち絲きをちを何乃ま細をあるまし
とをりロちけんゆきをは紡朱乃かうと
ひをを何の耳てりさちりひふをん
をへく誹てんを式ちを分む人を乃れ事
をく事紡伯病所誹諧をわひて句と
求ひへ月花をさうちり定をふもわ
ちをあを前句ちて發句ちてをけ

むへ〳〵和哥の師匠なくして
黄門定家ばかりにはせるべきなり
一下れ巻の秘哥のまゝ木枯葉とく
くちすゝ誹哥桃仏乃好士和哥茶祢と
ちゝ爭此巻巻ゆるとへきなり
一百韻奥切折面のひとり乃ものは
わかられい七句去ゆきとゝ細形〳〵七句
けものゝ五句去又句乃ものハ三句去
三句乃ものハ二句去歩越をゆるさすル

つををわかられとさし合かろさすり雖
ハ和漢漢和乃ものゝ七句八又句五句八三
句三句ゝ二句歩越ハ式目れたゝと新式
の事去らく歳ものゝ次へすり